

平成 31 年度 教育研究推進計画

(1) 研究主題

生徒の主体性を育む授業づくり

～めあてに対する授業展開の工夫を通して～

府南学園小中一貫教育研究テーマ

小中一貫教育充実のための併設型小・中学校教育の創造

－義務教育 9 年間を見通した資質・能力の育成－

(2) めざす生徒像

規律を基盤とし、自ら考え、自ら行動できる自律した生徒

(3) 本校研究テーマ設定の理由

平成 33 年度から本格実施となる新学習指導要領の理念となる前提の一つとして、社会のグローバル化の進展があり、これに対応できる人材の育成が求められる。一方、近年の日本では、人口減少、超高齢化社会などにより経済社会構造が「成熟社会」への転換が求められており、今後は、グローバルな発想をもちながらも、地域に根差し、地域において自分らしく活動する人材が必要であると考え。

今後の社会を担う生徒に必要な資質・能力を育成するため、本年度は、生徒の主体性を育む授業づくりについて、各教科の特性や単元の内容に応じて「課題発見・解決学習」の各過程の時間配分を工夫したいと考え、研修主題を設定した。

(4) 研究仮説

主体的な学びを促す「課題発見・解決学習」を意識した授業を展開し、各教科の特性や単元の内容に応じて「課題発見・解決学習」の各過程の時間配分の比重を変えて、めあてに対する授業展開の工夫をすれば、規律を基盤とし、自ら考え、自ら行動できる自律した生徒の育成につながるであろう。

(5) 研究内容

- ① 授業の目標（めあて）に対する生徒の実態把握をし、目標と生徒の実態の乖離を埋める取組を行い、生徒の資質能力の育成と向上について研究する。
- ② 主体的な学びを促す「課題発見・解決学習」を意識した授業を展開し、各教科の特性や単元の内容に応じた「課題発見・解決学習」の各過程のよりよい時間配分の比重を工夫する。
- ③ 広島県公立高等学校入試問題の傾向を検証し、各教科で評価問題を作成し、中間・期末試験等で実施する。

- ④ つけたい資質・能力の育成に関わって、カリキュラムマネジメントの視点から、教育活動全般において横断的に育成できるよう計画する。

(6) 検証の指標

- ① 授業実践を、生徒アンケート（授業前と授業後実施）及び教員アンケートにより検証する。
② 今年度の全国学力・学習状況調査結果を分析し、課題のみられる問題の類似問題を作成・実施する。（2学年を対象として、3学期に実施）

(7) 達成目標

- ① 全国学力・学習状況調査の課題がみられた問題を、1月に下学年で実施、4月より5ポイント上昇させる。
② 「授業がわかる、おもしろい、楽しみである」の3項目で肯定的な回答をする生徒の割合が70%以上<生徒アンケート>（1、2学期末実施）。
③ 定期試験の結果が30%未満の生徒が15%以下。

(8) 校内研修について

- ① 教育研究推進のため、次のとおり研修を予定する。

日付	内容
6月19日（水）	授業研修： 数学
10月23日（水）	授業研修： 英語
11月27日（水）	授業研修： 社会 ※京都教育大学 初田先生に講師依頼
12月4日（水）	授業研修： 国語 ※京都教育大学 初田先生に講師依頼
1月29日（水）	授業研修： 音楽

- ② 初任者研修（1名）、2年目研修（1名）、6年目研修（1名）
③ 広島県公立高等学校入試問題に準じ、各教科で評価問題を作成し、定期試験等で実践・検証する。

※本計画は、行事や諸事情等により変更の可能性がある。